

座談会

港南区50年のあゆみと未来へ

港南区制50周年を記念し、港南区に根差し、区の歴史と共に事業を継承されてきた
笠原節夫さん、加藤好男さん、内倉忠勇さんの3名をお迎えし、
これまでの50年間の思い出やこれからの港南区の未来に向けたメッセージなどについて、
今富区長を交えてお話をさせていただきました。



左から：今富区長、加藤さん、内倉さん、笠原さん

加藤 好男さん

Yoshio Kato

1948年(昭和23年)に上大岡で創業した捺染工場から始まり横浜発祥のブランド「瀧文様」を立ち上げ、てぬぐい等の生活雑貨の企画・販売を手がける株式会社ケイス代表取締役会長。

内倉 忠勇さん

Tadao Uchikura

港南区内で代々農業を営む内倉園芸の3代目。長年にわたり花卉園芸の振興に寄与するほか、港南交通安全協会副会長を務める。

笠原 節夫さん

Setsuo Kasahara

1929年(昭和4年)に港南区で養鶏業から始まり現在では鶏卵及び鶏卵加工品の販売等を行う株式会社八千代ポーター相談役。横浜商工会議所南部支部長も務める。

昔の港南区の思い出

今富区長 本日は、港南区誕生以前から区内で事業を営んでいらっしゃる皆さんにお越しいただき、昔の思い出や港南区の良いところなど、いろいろお話をお聞きしたいと思います。

まず、昔の港南区について、皆さんどのような思い出がおりでしょうか？

加藤さん 昭和30年頃、港南中央のあたりは一面が田んぼで家は5、6軒しかありませんでした。鎌倉街道も砂利道でね。

笠原さん 鎌倉街道は道路の広さも今の半分ぐらいだったでしょうか。あと、大岡川が一度台風で氾濫したことがあります。その時に川上から豚が流れてきたのは忘れられないですね。

加藤さん 現在の上大岡駅のあたりはずっとあぜ道で、小学校3年生までそのあぜ道を通って桜岡小学校まで通学していたものです。

今富区長 今の上大岡からは想像できない風景ですね。

内倉さん 桜まつりって言うところは弘明寺あたりが有名ですが、昔



は桜道のあちこちでも宴会が開かれていました。あとは、リヤカーに野菜を積んで売り歩いている光景も見かけました。

笠原さん あの頃からは想像できないぐらいに人口も増えました。昔は、ご近所全員の名前が覚えられるぐらいの世帯数でしたからね。

今富区長 おっしゃるとおり、人口が増えたということで南区から分区したという経緯もあります。やはり、道路や公共交通機関の整備が進んだことが大きいでしょうか。

加藤さん 地下鉄が開通するまではバスしか無かったので大変でした。さらに昔にさかのぼると牛車や馬車もあつたように記憶しています。

内倉さん 私が子どもの頃、平戸永谷川近くの天谷の辺りには堰があり水が溜まっていたので、学校帰り

にそのまま泳いだこともありました。

加藤さん 冬になって田んぼに氷が張るとスケートもやりましたね。

内倉さん 昔の冬は本当に寒くて、一週間ぐらい氷が張りっぱなしでした。お米を研ぐために水を汲もうとするのだけど、水が凍ってしまつて柄杓ですくえないようなこともありました。

加藤さん あと記憶に残つてるのは、やはりお祭りでしょうか。

内倉さん 春日神社のお祭りでは、芝居があつたのでよく遊びに行きましたね。

加藤さん あとは紙芝居も楽しみました。学校が終わる頃になると紙芝居屋さんが待っていたので、後ろを歩いて歩いていたものです。

港南区の良いところ

今富区長 今では想像できない貴重なお話をありがとございました。次に、港南区に長くお住まいの皆さんから見た、この区の良いところを教えてください。

内倉さん 交通の便が素晴らしく良いですよ。鎌倉街道や環状2、3号

線などの道路も整備されていますし、鉄道路線も市営地下鉄、京浜急行、JRと充実しています。

笠原さん あとは、緑が多いこと。子どもの頃に遊び慣れた山が今も残っているのはとても貴重なことです。

内倉さん 公園がたくさんあるのも良いですね。

今富区長 公園では自治会町内会の皆さんにお祭りを開催していただいています。

笠原さん 公園があるからこそ、みんなが集える。人口が増えた現在では、昔のように近所の人のことがわからないですよ。そんな時、自治会町内会のお祭りなどがあると、ご近所さんとの会話の機会もできるし、つながりもできる。だから、安心して住める町という印象にもつながるのではないのでしょうか。

今富区長 地域のイベントなどにお邪魔するたびに感じるのですが、港南区の皆さんは、「地域でできることは自分たちで」という意識が強いですよ。

笠原さん あとは、計画的に開発が進んだので、とてもバランスが良い町だと思います。それこそ、15分も歩けばどこかの駅にたどり着けます。

加藤さん 緑があつて静かで住みやすい。離れたくない町ですよ。

今富区長 定期的な区民意識調査を実施していますが、その結果を見ても、「港南区に住み続けたい」と感じてください。ださる方が非常に多い実感です。

内倉さん 治安も良いと思います。

時代の流れに合わせて工夫してきた点

今富区長 ありがとございます。では今度は、時代の流れに合わせて事業内容や将来を見据えた展望など、皆さんが工夫をされた点について、お聞きしたいと思います。

笠原さん 私は鶏卵業でこれまできましたが、農業にも大きな可能性を感じています。現在、神奈川県農業法人協会の会長もしているの



ですが、人口400万人に迫るこの横浜で都市農業としての経営が成り立つような体制をできれば良いな、と考えています。生活がありますから、やはり利益が出ないと後継は難しい。

鶏卵の分野では、横浜DeNAベイスターズと連携した商品開発をしたり、商工会議所との連携によるヨコハマハニー&エッグプロジェクトで商店街の活性化や地元農業と消費者の皆さんをつなげていくことに尽力していきたいと思っています。

今富区長 内倉さんはいかがでしょうか？

内倉さん やはり機械化ですね。これにより、生産量が2倍、3倍に増えました。

今富区長 どのような機械を入れているんですか？

内倉さん 播種機(種を撒く機械)や温度設定の自動化です。昔は窓を開け閉めすることで室温調整をしていましたが、今では例えば25℃で発芽する品種については、25℃にセットしておけば、ちゃんと発芽してくれます。初期費用はかかりますが、長く使えますし、ロスも少なくなりました。品物も勘に頼っていた頃より、良いものができるようになりました。

また、うちは代々農家で、私が3代目

になりますが、時代の流れとともに扱作物は変えてきました。それこそ、昭和30年代までは野菜や稲を中心にやっていました。その後、カーネーションの切り花やシクラメンの鉢物を取り扱うようになり、港南区に戸建てが増えてきた昭和50年ぐらいに花壇に植えるような草花を始め、現在は主力を置いています。

今富区長 ありがとうございます。それでは、次に加藤さんお願いします。

加藤さん 昭和の頃は、一生懸命働いていれば仕事が来ましたが、何とかやっていた時代でした。それが平成になると機械化で仕事も減り、業態をガラッと変えないと先に進めない。昭和30年頃には120社ぐらいあった^{ちんせん}捺染工場も今ではほぼ無くなってしまいました。



仕事を待っているだけでは工場は動かない。そこで、何とか工場を動かすために^{はまなまよう}濱文様というブランドを立ち上げたのですが、最初はまったくで、20年ぐらい続けるうちに売れるようになりました。自社で企画から生産まで行うコストメリットがあるので、季節に応じた新作をどんどん展開することができま。

今後に向けても、機械化やアウトソーシングの活用により効率化を図っていくことが目標でしょうか。

今富区長 ありがとうございます。

港南区の未来に向けたメッセージ

今富区長 それでは最後に、港南区及び港南区に住む子どもたちに向けて、未来に向けたメッセージをお願いします。

笠原さん 学生生活の中でも社会人になってからでも良いのですが、子どもたちには何をやりたいのか、目標を早く見つけてもらいたいです。せっかく自分自身の貴重な時間を費やすわけですから、人生の先輩としてこの点はぜひ伝えたいですね。



加藤さん 私は、シンプルではありますが、道路にしても公園にしても「安全・安心のまちづくり」を継続してもらいたいです。

内倉さん 港南区は住環境が素晴らしいので、ぜひ将来に向けても残していただきたいと思っています。良い住環境を維持することができれば、若い世代にも住んでいただけて活性化にもつながるのではないのでしょうか。

今富区長 ありがとうございます。港南区が誕生する以前の昔のお話から、時代の流れにに応じて皆さんが工夫されてきたこと、将来に向けたメッセージ等々、大変有意義なお話をお伺いすることができました。本日は、貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございます。

※この座談会は令和元年8月5日に行いました。